

一人ひとりが主体的に思考・行動する

会長 近藤 英治

2022年も残すところあと僅かとなりました。皆さんにとって今年はどうのような1年だったでしょうか？ロシアによるウクライナ侵攻は世界に衝撃を与えました。皆に押し戴かれリーダーとなり国が栄えても、志を遂げた後に専横を極め周りの忠言に耳を傾けなければ国を危うくするのは古今東西を問わず世の習いです。医師は立場の違いはあれ皆リーダーとしての役割を担うことが多く、人や組織の興亡は自身にかかっていることを自覚し傲慢にならないよう努めたいものです。



さて、私の2023年の目標を2つ挙げたいと思います。ひとつは自律的に働くことや主体的に挑戦することを歓迎する教室の風土を醸成することです。2022年は、熊本大学産婦人科に集う一人ひとりが活き活きと働けるよう、試行錯誤しながら職環境の改善に取り組んできました。私たちは「患者さんに最善かつ安心・安全な医療を提供すること」を行動規範に掲げていますが、その継続的な実現は各人の力の結集なくして不可能です。そのためにも、「熊本で働けてよかった」と誰もが心から思える職場であることが何より大切だと考えます。2024年に導入される「医師の働き方改革」では時間外労働の上限が設けられていますが、決して消極的な仕事や手抜き仕事の推奨を目的としたものではありません。各人が高いモチベーションを保ちつつ、自身のライフスタイルに合わせて納め得る働き方を選択し、チームの一員として充実した人生を送ることを願います。職環境の改善は皆の協力により着実に前進していますがまだ緒に就いたばかりであり、今後、公平性の確保など難題が立ちはだかることが懸念されます。働き方に限らず、臨床や研究においても、壁に直面した時こそ自分の頭で理想を実現するにはどうすればよいか考え、改善策を上司に働きかけ、主体的によい方向へと物事を動かしていくことを一人ひとりが習慣づけることを期待します。組織の風土というのは皆さん一人ひとりの意識・行動から自ずと形成されるものです。そのような取り組みを続けた先にどのような教室の風土が醸成されるか楽しみでなりません。

もうひとつは自身の心構えとして広く人の話に耳を傾けたいと思います。進化し続けるチームを創り、熊本全体の産婦人科医療をより発展させるには、現場の多様な意見を聞きながら常に最善の判断をする必要があります。私が誤った方向に進もうとした際は躊躇せず諫め正してください。

先日行われたサッカー W 杯では海外で実力を磨いた若い選手が主体的に自身の役割を全うしチームとして素晴らしい成果を成し遂げました。下馬評を覆し日本がドイツとスペインに勝利し世界を驚かせたのですが、当の選手たちは、「奇跡ではなく必然の勝利です」とコメントを残しました。これは大言壮語ではなく、自身がこうありたいと強く願い、一人ひとりが毎日をやり切った自信から発せられた言葉であったと思います。皆さんが主体的に地道な努力を続け、自身の成長を感じる1年とされることを期待しています。

(2022年大晦日)